

# わか草



第63号 令和4年7月1日  
発行 東京都立東部療育センター  
広報委員会  
東京都江東区新砂3-3-25

## 東部フェスティバル

令和四年度東部フェスティバルを六月二十三日(木)三階南・二階南病棟、二十四日(金)三階西・二階西病棟で開催しました。感染予防策を実施しながらも東部フェスティバルの日は病棟から離れて、普段とは異なる環境で楽しく過ごして頂けるように考えました。

今年のテーマは「音楽」です。音楽フェスティバルを通して五感で刺激を感じるを目標に、岩崎院長による開催挨拶の映像で開始しました。五感に関する解説の開催挨拶でした。自作タオルや自作楽器を持ってフェスへ行く準備、テラスではミストや霧吹き、プチプチ道を通り抜けてフェスのチケットを受け取り、テラスを通り抜けて三階は研修室へ、二階はプレイルームへ行くことダンス&楽器演奏エリア【動的】、光のエリア【静的】の二つの空間が待っています。



3階病棟のフェス

ています。虹をテーマにした装飾を少しみ、いざ楽器演奏エリアに入ると、プロジェクトによる大きなライブ映像、音響設備による身体に響く音楽を体験できます。

三階は音楽フェスの映像を流してフェス体験し、見たいアーティストをアリーナ席で鑑賞しました。音楽にこだわって、骨伝導イヤホンも準備しています。骨伝導イヤホンを装着するといつもよりもはっきり聞こえるのか驚いた表情になったり、聞こえ方がおもしろいのか笑顔になる利用者様も。

二階は民族楽器演奏と車椅子ダンスを体験しました。車椅子ダンスは動きが大きく、車椅子を操作する病棟職員もお手伝いしてくれるリハビリ科職員も汗をかきかき盛り上がりしました。

光のエリアではスカarfで装飾された幻想的な空間で、プロジェクト映像やライト、アロマを使ってチームラボ体験です。動から静へと環境が変化し、音楽も穏やかな曲になります。動的エリアで盛り上がり、静的エリアでクールダウン、リラクセスして病棟へ帰ることができました。



2階病棟のフェスの様子

例年は病棟に戻ると栄養科特製のおやつが待っていました。今年も二十三日(水)のおやつに「夏」をテーマに考えられたメント風味(青色)の生クリームケーキとゼリーができました。ゼリーの器には小さなヤシの木が生えていて南国の海の様でした。東部フェスティバルの前日におやつを提供することで、いよいよ東部フェスティバルだと期待、ワクワクすることができたと思います。

使用する場所や設備は同じでも、楽器演奏エリアや光のエリアは病棟ごとに特色が出ていました。三階南はGITA ROCK JAPAN、二階南はHIRISING SUN、三階西はFUJISACK、二階西はKIMERSON(と有名なフェスと各病棟の職員の名前を融合してチケットや看板も作り、病棟みんなで作り上げた東部フェスティバルになりました。

### 祝

## 入学を祝う会

かもめ分教室

令和四年四月七日に、かもめ分教室の入学を祝う会を行いました。今年度の入学生は小学部一年生が一名です。新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン実施となりましたが、保護者の皆様には、リモートでの参加、病棟スタッフや利用者の皆様には、遠目から祝っていた大きな入学式でした。十二年間の学校生活の始まりです。いろいろな方に支えていただきながら、笑顔いっぱい楽しい充実した学校生活を送ってほしいと思います。

(かもめ分教室)

#### おやつ

経口の方用のおやつ

#### おやつ

経管の方用のおやつ

海をイメージしたケーキ&みんな大好きメロン杏仁ドリンクもたくさん種類がありました。美味しい笑顔が見られました。

## 看護科長着任のご挨拶

看護科長 北村 裕貴

四月一日付に山田看護科長の後任で療育部に着任いたしました。前任の山田看護科長は十年間東部療育センター療育部が質の高い看護・療育を提供してこられたための支援や育成をしてこられました。その後を引き継ぐことになり重責を感じております。

前職場は東京都立病院三つの施設の現場で看護をし、その後看護部の看護担当科長として東京都立小児総合医療センター、大塚病院、墨東病院で人材育成やシステム、災害担当などしてまいりました。

療育施設での勤務は初めてであり、入職時のオリエンテーションでは重症心身障害児者の動向や施設の歴史などを学び、ここで働く職員の皆さんが利用者の皆様の一人ひとりの方に思いを添い、様々な工夫し療育を提供してこられたことを知ることができました。これまでの施設でも重症心身障害児を治療のためやレスパイトで受け入れていましたが、ごく少数であったこと、治療が終われば自宅に帰っていく患者さんでした。療育センター

では利用者様一人ひとりにとってここは特別なところであり家族・家庭であるということを感じました。

二〇二〇年の新型コロナウイルス感染拡大が広がる中で当センターでは院内感染対策を実践しており一度も利用者様には感染者を出していません。

着任し間もない四月の下旬に職員、利用者様の新型コロナウイルス感染が疑い発生いたしました。新型コロナウイルスの感染力の強さを目の当たりにし、重症心身障害児者は呼吸器系に課題がある方が多くても心配いたしました。専門病院での治療後、利用者様が元気に戻っていらした時に「はほっといたしました。これからも続くであろう新型コロナウイルスとの闘いですが、感染予防策を行いながら安全に、制限されている中で療育活動を工夫することで新たな外出方法や季節の行事活動など提供できるようにお手伝いができたと思います。



東部フェスティバルにて北村看護科長(後列中央)

療育部では人材の確保、定着が課題です。一人でも多く重い障害を持つ重症心身障害児者の命の尊厳を感じ、療育を提供したいという看護職員に求めてもらえるよう、当センターの魅力を伝えていきたいと思えます。そのため看護実習の受け入れやリモートでの説明会など積極的に行っています。また、療育部全体で就職した職員を一人ももれなくフォローしていくための研修やラダーを活用して育成し定着を図っていきます。

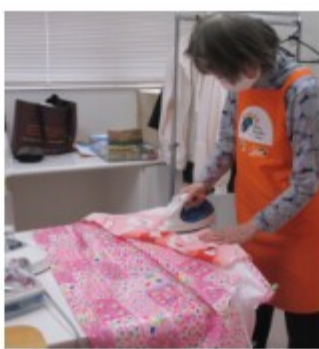
当センターの基本理念でもある「最も弱いものをひとりももれなく守る」のもと、私も五感のすべてを使い利用者様の思いを受け止め、「笑顔で楽しく・誠実・愛情」を大切に皆様と一緒に努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 紹介

## ボランティア

当センターでは、新型コロナウイルスの影響によりボランティアの療育活動への参加や新規募集を中止しています。が、現在もボランティア(利用者様と直接関わらないことが原則)を継続されている方が数名いらっしゃいます。

その中のお一人が、裁縫ボランティアの伊藤知砂子さんです。リハビリ科で使用するクッションカバーや楽器を持ち運ぶバッグなどに様々な物を製作して下さいます。伊藤さんは、以前洋裁のお仕事をされていたためその腕はプロ級!二〇一〇年から活動されていることもあり、私たちの無理難題を忠実に再現して下さいます。週一回二時間の活動をいただいています。が、常に人気!!で行列のできる洋裁店です。



作製中の伊藤さん

ファッションショー用の手作り衣装

令和四年度日本重症心身障害福祉協会  
全国施設協議会に参加して

五月二十日に日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会がオンラインで開催されました。協議の中での特別講演では、緑成会整育園から短期入所利用者への「医療的ケアとその決断に対するアンケート結果」が報告されました。胃瘻や気管切開などの外科的処置を伴う医療的ケアはゼロ歳から五歳と十五歳から二十五歳に決断のピークがあることが報告されました。ゼロ歳から五歳までは基礎疾患によるものまたは致死状況の脱するため決断されることが多く、十五歳以降では繰り返し誤嚥などの患児者側の合併症のために外科的処置を余儀なくされる場合と介護者側の体力が低下し、在宅でのケアの限界を意識され外科的処置に踏み切る場合もあることが報告されました。

また、都立小児総合医療センター在宅診療科からは「小児在宅医療と移行期医療の現状と重症心身障害児・者と医療的ケア児・者の「十八歳問題」」について報告がありました。四十年前と比較し二十二年の出生数は半減し八十四万人となった。一方、小児の死亡率は医療の進歩に伴い減少し四半世紀で約三分の一に減少したものの、在宅人工呼吸器を必要とする小児患者数は急激に増加し小児医療の中で相対的に医療的ケア児の対応の重要性が増加していることが強調されました。

医療的ケア児に関心が強くなった社会的背景として、(一)従来、情報収集や自治体との交渉・連絡は介護で疲弊している家族が主に行っていたが、平成二十七年から障害者総合支援法により全ての障害者に「親の代わりに」相談支援専門員が配属されたこと。(二)、平成二十八年に「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律および児童福祉法の一部改正する法律」が施行され「医療的ケア児」が「肢体」「知的」「精神」「発達障害」に続き第五の障害として初めて法律に明記され、自治体の医療的ケア児への対応が「努力」義務規定になったこと。(三)、医療的ケア児及びその家族に対する法律が施行され、「その家族の離職の防止」や医療的ケア児が医療的ケア児ではない児童と共に教育を受けられるよう配慮されたことなどが挙げられると報告されました。但し、「十八歳問題」として

特別支援学校高等部を卒業した医療的ケア児は医療的にも福祉的にも行き場がないことが問題との提言がなされました。成人医療への移行については、移行が容易な地域と困難な地域があること(地域格差)に加え、疾患による格差が大きいこと、特に治療法がなく小児症例の多い難病の移行が困難と報告されました。

初めの演題の外科的処置を決定する時期の問題、次の演題である成人期での移行医療の問題は、いずれも日々の診療の中で医療者にとっても身近に感じている問題であり、今後も議論の継続が重要と考えられます。(副診療部長 荒井)

紹介  
メールマガジン

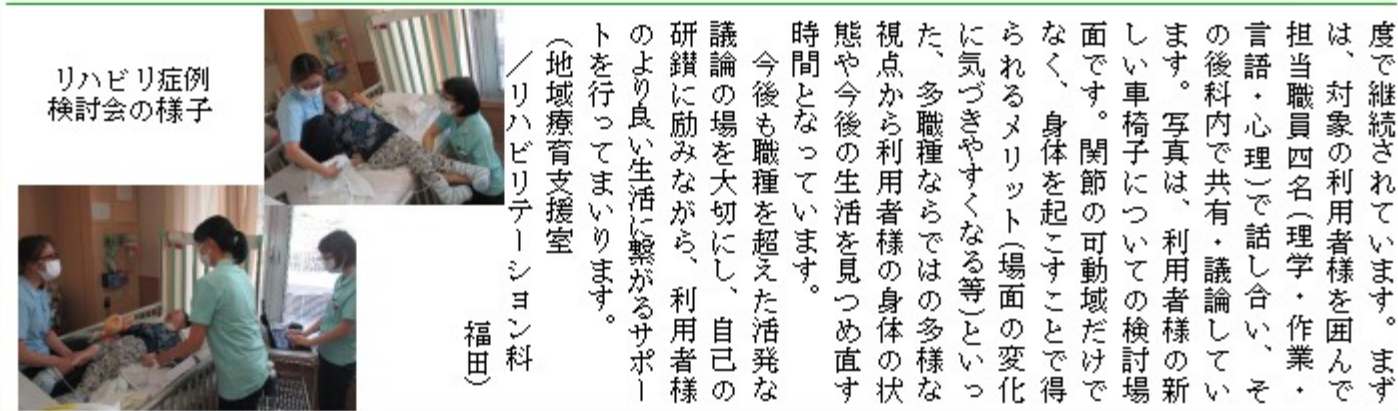
当センターでは、皆様に役立つ情報を年八回配信しています。これまで配信した内容は、ホームページにも掲載していますので、是非ご覧ください。配信をご希望の方は、ホームページ「行事や広報誌などのご紹介」の中のメールマガジンの登録からご登録できます。今後も様々な職種から配信していきますので、皆様のご参考になりますと幸いです。(広報委員会事務局)

リハ科  
連載コーナー

今年度は、リハビリテーション科が一年間連載記事を担当しています。今回は、令和三年度からの取り組みである、リハビリテーション科症例検討会についてご紹介いたします。

当センターでは毎年、医師・看護師・生活支援員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理指導員(公認心理師)・栄養士・歯科衛生士・医療ソーシャルワーカーが集い、利用者様のケース会議を行っています。私たちはこの会議を通して利用者様の状態の理解を深めています。近接領域の専門職間でより活発に意見交換し、セラピーの質の向上や豊かな生活のサポートに繋がるよう検討する会をリハビリテーション科内に設けました。この会は職員の間でも兼ねており、経験の浅い者は問題解決の糸口を見つけ、中堅以上の者は自身のセラピーを見直すとともに後輩育成を行うことも目的となっています。

令和三年七月から始まったこの取り組みは、月一回の頻りに取り組まれました。写真につきましては、全て掲載の許可をいただいております。



リハビリ科  
症例検討会

リハビリ科  
リハビリテーション科  
(地域療育支援室 福田)

部門紹介  
薬剤科



薬剤科は、様々な業務の中で医薬品の適正使用と安全管理を目標に、「薬あるところに薬剤師あり」を心がけています。薬剤師業務は多岐に渡っていますが、その中でも利用者の方々に直接関係する内容を紹介します。

長期入所者の調剤はもちろんですが、短期入所者の薬にも関わっています。毎朝入所時に自宅から持参される薬の内容確認を行い、病棟にて安全に使用する手助けをしています(写真)。

また、小児や障害を持っている方に対する薬物療法は難しいことも多く、市販されていない薬品については原料を元に作製したり、医師やスタッフからの相談にも数多く対応しています。

さらに記憶に新しいところでは、センター内で接種されたコロナワクチンについて、接種までの準備(温度管理・希釈・注射器への分注)を薬剤科内のクリーンベンチで行いました。



短期入所時  
薬の確認の様子

(薬剤科 佐藤)



お父様へ”紫色”を

通所  
日常写真

今日は通所のグループ活動「レジン工房」に参加させていただきました。透明な”樹脂”を紫外線に当てることで硬化するレジンでストラップを作りました。土台の色・中に入れるパーツ・配置・ストラップの色を、利用者様にひとつずつ確認し、世界でひとつだけのストラップが完成しました。この日は、お父様にプレゼントしたいという利用者様もいて、素敵な作品に仕上がっていました。

完成した作品は、今月皆様にお配りできるように仕上がっているか、お持ち帰りを楽しみにさせていただきます。(広報委員会事務局)



完成品を  
発表!!  
メロンソーダ  
綺麗でした



利用者様が  
制作した  
ストラップ

東部あれこれ

春から初夏の  
センターの動きです。

新型コロナウイルス感染症については、三月二十一日まで実施されていたまん延防止等重点措置が解除され、新規陽性者数や重症患者数なども年初と比べて大きく減少してきましたので、センターの事業も平常に近づくことが期待されています。

【四月】

今年も新たに乳幼児通所にいらっしゃる方や新入職員を迎えて新年度が始まりました。かもめ分教室では、小学部に一年生を一名お迎えし、現在在籍している高等部二名、中学部一名、小学部三名の方が、それ

ぞれ進級しました。四月は、新たな出会いとともにいるいるなことがスタートします。緊張感もありますが気持ちも新たに積極的に取り組んでいただければと期待しています。

【五月】

東京では五月に夏日(最高気温が二十五度以上の日)が十四日もあり、下旬には晴れの日が多く暑かったですが、バスによる病棟遠足が始まりました。二十五日には、墨田川を挟んで浅草や東京スカイツリー界隈をドライブしてきました。久しぶりの外出でしたが下町の賑わいを感じられて、みんな大喜びでした。

【編集後記】

七月号いかがでしたでしょうか。

東部フェスティバルなどの夏の行事も終わってしまいましたが、これからが夏本番です。今年も梅雨明けが早く長い夏となり、コロナ対策に加え暑さ対策も重要となります。皆様におかれましては水分をこまめに摂り、食事と睡眠と休養で体調を整え、長く暑い夏に負けずにお過ごしください。

【六月】

東京は沖縄・奄美以外の地域ではまだ梅雨に入っていない六日に梅雨入りしました。昨年より八日早い梅雨入りでした。バスによる病棟遠足は、八日に、五月と同じ浅草や東京スカイツリー界隈を、また、一日と十五日には、伝統や歴史とともに洗練された雰囲気を感じられる日本橋・銀座・歌舞伎座の街並みを巡りました。また、二十三日と二十四日には、昨年と同様、例年秋に行っているオクタムフェスティバルに替えて、東部フェスティバルが開催されました。

(事務長 松浦)

草のわたり方  
ならどうぞ  
をこちら  
は

